

考える楽しさ、作る喜びを見つける
「サイエンスプラス」「東北ポリテックビジョンin栗原」

小中学生を対象に、科学のプロセスとものづくりの楽しさを伝える「サイエンスプラス」(主催:宮城県)が10月3日、東北職業能力開発大学校(栗原市)において開催され、350人が参加した。

この日は、「東北ポリテックビジョンin栗原」(主催:東北職業能力開発大学校)も同時に行われた。電子オルゴールづくりやエアエンジンカーづくりなど、親子で楽しむことができ、4つのものづくり教室は、いずれも盛況を見た。将来のものづくり社会を担う人材育成をねらい開催された2つのイベント。参加した子どもたちの中から、日本のものづくりを担う人材が登場することに、大きな期待が寄せられる。



電子オルゴールの製作など、東北ポリテックビジョンin栗原のものづくり体験教室も盛況



「液体窒素のふしぎ」では、バラなどを凍らせる実験を行った



一迫商業高等学校の生徒たちがプロデュースする「キッズビジネス販売体験」では、子どもたちが餅の販売を行った



「木工椅子の製作体験」では、実際に木製のイスを作りながら、木造建築で用いられる工法を学んだ

被災地を支援する若者がこれまでの活動を報告
住友商事ユースチャレンジ・フォーラム2015

東日本大震災の被災地で地域再生に取り組む若者同士の交流・活動報告などを目的とした「住友商事ユースチャレンジ・フォーラム2015」が、9月12日と13日に仙台市内で行われた。12日には、「中間報告会」

が開かれ、住友商事株式会社(東京都)が実施する「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」の助成を受ける大学やNPO、学生グループの関係者が参加した。気仙沼の若者と協働して、東京圏で水産加工品の販路開拓を目指す取組や、石巻市と東松島市の6つの高校と連携して、新ブランドを創出する取組など、今年度新たに助成を受けている11団体が、これ



会場には若手・宮城・福島で活動する大学生らが集まり、発表に耳を傾けた



開会のあいさつをする住友商事環境・CSR部社会責任者から発表者に対し活発な意見が出された



記念撮影。発表者は、今後の頑張りを互いに誓い合っていた

までの活動を発表した。講師では、認定NPO法人JUNON(樹恩)NETWORK事務局長の鹿住貴之さんが、「被災地の若者が高校卒業後も地元で働く環境をつくるためにも、みなさんが活動を続けることは、とても大切なことです」と参加者にエールを送った。13日には、ポスターセッションとシンポジウムが行われ、参加者は震災後4年が経過した、現在の被災地支援の意義について意見を交わした。

「愛車の健康チェック票」をもとに練習を積み、直前には、学生や職員の車で本番さながらに練習もこなしてきたという。当日は天気にも恵まれ、市内の自動車整備士とともに、買い物客の車を点検した。外観(灯火類、タイヤ)、エンジンルーム内(ブレーキ液、バッテリー、冷却水、オイル類、ベルト関係)、室内(ハンドル、駐車ブレーキ)などのチェック項目について、生徒は練習してきたことを思い出しながら点検をした。

終了後、学生は自動車の持ち主に点検結果を報告し「ありがとございました」とあいさつ。持ち主も笑顔で手を振っていた。参加した学生は、「練習の成果を発揮でき、お客様にも喜んでいただけうれしかった」「学校とは違う緊張感がありました、いい経験になりました」と話した。無料点検は、一般社団法人宮城県自動車整備振興会が主催。みやぎ生協小鶴新田店を含めた県内16カ所で行った。



車好きなお客様と車談義も弾む。市民との交流も有意義な時間となった



エンジンルーム内の点検も万全に。大切な愛車を預かるという緊張感と誇りを持つ



プロの自動車整備士の指導を受けながらの点検。学校とは違う学びがあった



スーパーの駐車場でマイカー無料点検を実施、30台以上の応募があった

雇用の安定・県内定住と志教育の推進を目指し産学官が協力

10月23日、「宮城県における雇用の安定と定住推進協定」が、宮城県、宮城県教育委員会、宮城労働局との間で締結された。県教委を含めた雇用対策に関する協定の締結は全国初。

村井嘉浩宮城県知事は「ひとりでも多くの県民が地元で安心して働くことができるよう、3者が相互に協力し合い、安定した雇用の創出と雇用の質を高める取組を行っていききたい」と意欲を示した。

協定では東日本大震災からの創造的復興と地方創生の趣旨を踏まえ、若い世代の勤労観や職業観の醸成に努めるなど、志教育および雇用対策を一体的に取り組み、雇用の安定と県内定住を推進する。

また協定の重点事項のひとつであるキャリア教育・志教育に県全体で取り組むため、東北経済産業局、東北学院大学(COC+事業実施責任者)、宮城県中小企業家同友会を加えた6者



「宮城県における雇用の安定と定住推進協定」では3者が、「キャリア教育・志教育の推進に関する覚書」では6者が締結

間で、「キャリア教育・志教育の推進に関する覚書」を締結。仕事や地域に対する理解を育むことで若年無業者などの問題を解消し、早期離職の抑制と地元定着を目指して事業を展開する。

仙台市・宮城県の産学連携を推進する取組
第100回「寺子屋せんだい」開催

仙台市産業振興事業団主催の産学連携セミナー「寺子屋せんだい」が、11月20日にせんだいメディアテーク7階スタジオシアターにて開催された。

2004年の開始以来、100回目となる今回のセミナーには100名以上の地元企業関係者が参加。講演会では、世界で初めて白色有機EL素子の開発に成功し、有機ELの世界的権威としても知られる山形大学大学院理工学

研究科の城戸淳二教授が、有機ELの開発に至った経緯や、どのように応用できるのかなどについて紹介した。企業と大学が連携するメリットについて、城戸教授は「研究には膨大な費用がかかる。白色有機ELが世界に評価されたことをきっかけに企業との連携が実現し、資金面での援助を受けられるようになったことは非常にありがたいことだ」と語った。



山形大学大学院理工学研究科の城戸淳二教授

県内工業高校の生徒たちが研究を発表
「生徒活動成果発表会」

県内の工業系専門高校が、日頃の研究成果を発表する「生徒活動成果発表会」が10月31日、石巻専修大学で開催された。

今年、ステージの部に9チーム、展示発表の部に11チームがエントリー。ステージの部では、生徒がパワーポイントを使ったプレゼンテーションを実施した。また展示発表の部では、各チームが資料を展示したブースで研究成果を披露。



午前中はステージの部。9チームがパワーポイントを使って研究発表を行った



午後からは展示発表の部。11チームがブースを構え、各自の成果を順に発表した

どのチームの発表も工業と社会の発展を見据えた素晴らしい研究であった。審査の結果、ステージの部では石巻工業高校の天文物理部材料開発班による「自作の光触媒の性能向上に関する研究」が、展示発表の部では登米総合産業高校の工業部機械工作班による「圧縮空気の有効活用の研究」がそれぞれ最優秀賞を受賞した。最優秀賞に輝いた2チームは、来年11月に石川県で行われる第26回全国産業教育フェアに出場する。

これからイベント開催情報

第14回東北ポリテックビジョン

「東北から作り出そうものづくりの未来を、発揮しよう 東北の若い力を」テーマに、東北職業能力開発大学校、付属青森校、付属秋田校および県立短期大学校などが参加して、「ものづくり教育訓練」の成果、受託・共同研究などの発表、展示、講演、競技会などのイベントを開催します。

【開催予定日】
日時/2月19日(金) 9時30分~17時
2月20日(土) 9時~15時30分

場所/東北職業能力開発大学校
※詳細は決まり次第ホームページで紹介いたします。
問 / 02288-222-2082
http://www3.jeed.or.jp/miyagi/college/about/polytechnic.html

新規高卒者就職面接会

2016年3月卒業予定の高校・大学の新卒者、3年以内の既卒者を対象とした就職面接会を実施します。事前申し込みは不要。

【開催予定日】
日時/2月8日(月)

場所/アエル5階
日時/2月18日(木)
場所/アエル5階
※開始時刻は未定
主催/宮城県、宮城労働局、仙台市、ハロワーク
問 / 022-211-2772 (県雇用対策課)